

令和3年度 学校評価

今年度の重点目標と評価項目

1 確かな学力を身に付け意欲的に学び合う児童の育成										
重点目標	評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	肯定的な評価の割合(評価方法)	実施時期	成果(○) 課題及び改善策(▲)	7月評価	12月評価	
確かな学力を身に付け意欲的に学び合う児童の育成	学びの構えの育成	1	研究推進	【成果指標】 単元や本時のゴールの見直しを持たせることで、児童の学習用具(学習の構え8項目①持ち物5点セット)が整い、忘れ物をせずに登校している。	肯定的な評価の割合(児童・保護者アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○月ごとにパッチリトライの取組項目を明確にし、見直しを持たせ、さらにクラスでパッチリたまごをゲットするという可視化を行ったことで、児童への意欲につながり、成果がもたられた。 ▲習字がついたところまでは至っていない。個人差もあるため、今後声かけを行ったり、再度振り返りを行ったりして、学びの構えを習慣づけしていく。	A	B	
		2	研究推進	【成果指標】 月ごとのパッチリトライに取組んだことで、学習の構え8項目(②準備して休み時間③ベル学)の徹底ができています。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○学習の構えが定着したところまでは至っていない。個人差もあるため、今後声かけを行ったり、再度振り返りを行ったりして、学びの構えを習慣づけしていく。	A	B	
		3	研究推進	【成果指標】 月ごとのパッチリトライに取組んだことで、学習の構え8項目(④パッチリトライの姿勢からはきはき返事⑤天井手アスタットの約束)の徹底ができています。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○児童・保護者アンケート	C	D	
	確かな学力を身に付け意欲的に学び合う児童の育成	教職員の授業力の向上	4	研究提案	【努力目標】 学力向上ロードマップを可視化し、進捗状況を把握しながら改善を行っている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○学力向上PMリーダー会を定期的に開き、進捗状況から次の改善点を明確にしている。 教員アンケート: 92%	A	A
			5	集計・分析	【努力目標】 学力調査・和倉検定等による検証結果を授業改善につなげている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○学期ごとの和倉検定以外にも、毎月書く力UPテストを実施し、分析を行い、児童の表現力の伸びを見取り、次の取組について全員で共有している。 教員アンケート: 100%	A	A
			6	研究提案	【成果指標】 学力向上タイムスケジュールをもとに、全教職員で計画的に取り組んでいる。	肯定的な評価の割合(和倉検定結果) 合格者割合 A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	7月・12月	▲学年で差がみられる。個別的な補完を計画的に行う必要がある。 1年: 国語96%、算数100% 2年: 国語88%、算数69% 3年: 国語43%、算数65% 4年: 国語90%、算数70% 5年: 国語72%、算数67% 6年: 国語75%、算数81%	C	B
			7	研究推進	【努力目標】 研究により改善点を全体に共有して取り組んでいる。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○要請訪問での修正点からさらなる授業改善につながるよう、研究により改善点を明らかにしている。 教員アンケート:	A	A
			8	研究提案	【成果指標】 授業がよくわかると感じている。	肯定的な評価の割合(児童・保護者アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○単元のゴールを児童と共に考えたことで、児童が何ができるようになったかがわかりやすく、次の意欲にもつながっている。 ・児童: 95% ・保護者: 87%	A	A
			9	研究提案	【努力目標】 自分の思いや考えを文や図でかくことができている。	肯定的な評価の割合(児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○1年生の中で自分の考えを文や図でかくことができる児童が増えている。 ▲書く内容については習字スキルで理由を述べるときの書き方を指導しているが、定着できていない。 児童アンケート: 91%	B	A
			10	研究推進	【努力目標】 相互授業参観後、参観した実践を自分の授業に活かしている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○要請訪問と相互参観を実施し、教材研究や整理会を行ってきたことで、児童と共に単元のゴールを明確にするという授業改善ができた。	C	A
			11	情報	【成果指標】 ICT研修会やICTサポートの有効な活用を授業者に提案し、ICTの活用を進めている。	肯定的な評価の割合(授業での児童のICT活用) A: 毎日 B: 週3日 C: 週1回 D: 時々	7月・12月	○授業で自力解決の場やグループ・全体での学び合いの場をタブレットを活用できている。 ▲児童が使い慣れてきたことで、情報モラルも指導していく必要がある。 児童のタブレット活用: 毎	A	A

2 全教職員が共通の目標に向かって協働する学校									
重点目標	評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	肯定的な評価の割合(評価方法)	実施時期	成果(○) 課題及び改善策(▲)	7月評価	12月評価
全教職員が共通の目標に向かって協働する学校づくり	組織的な学校運営	12	教頭	【努力目標】 校長ビジョンの具現化に向けて、中・短期的評価を実施しながら、PDCAサイクルで工夫・改善している。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 十分取り組んでいる95% B: 取り組んでいる90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	7月・12月	○それぞれの部会で月に1回取組を検証しながら、児童の実態を把握したうえで改善策を提案し実践している。 教員アンケート: 100%	A	A
		13	教務	【努力目標】 小さなことでも報告・連絡・相談をし、その都度各種委員会を立ち上げ改善策を話し合っている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 十分取り組んでいる95% B: 取り組んでいる90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	7月・12月	○小さなことでもすぐに報告し、対応を考えることができていたため、各種委員会を立ち上げて対応するようになった大きな事業になっていない。 教員アンケート: 100%	A	A
		14	教頭	【努力目標】 常に危機意識をもって、組織的に対応し、保護者への速やかな対応を行っている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 十分行っている95% B: 行っている90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	7月・12月	○報道後、最悪を想定しながら速やかに対応し、保護者へは迅速に連絡を行っている。 教員アンケート: 100%	A	A
教職員の資質・能力の向上	教職員の資質・能力の向上	15	教務	【成果指標】 主任をリーダーとして教務部会を計画的に開催し、チームごとに課題からの改善策を出している。	肯定的な評価の割合(校務部会) A: 昨年度の反省点をもとに課題を明確にし改善策を出している B: 会の前に提案の準備ができています C: 昨年度の課題が把握されないまま提案している D: 前例踏襲を行っている	7月・12月	○主任を中心に部会を定期的に開催し、昨年度からの課題や喫緊の課題について改善策を話し合い、主任会で協議している。	A	A
		16	教務	【成果指標】 若プロコーディネーターを中心に、年間計画に沿って若プロを実践している。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 計画通り実践できている B: ほぼできている C: 十分とはいえない D: 不十分である	7月・12月	▲若プロとしての研修会が開催しにくいので、全職員での研修として行っている。教員としての服務等の研修が不足している。 教員アンケート: 77%	C	C
		17	教頭	【成果指標】 公務員としての立場を理解し、危機管理と法令遵守の徹底のための自己研鑽の場を設定している。	肯定的な評価の割合(校内研修・職員会議・終礼) A: 十分取り組んでいる B: 取り組んでいる C: 十分とは言えない D: 不十分である	7月・12月	○事例をもとに、終礼や職員会議で定期的に服務規律について考える機会を作っている。	B	A

教職員の働き方改革の推進	①働き方改革を意識した効果的・効率的な業務改善	18	教務	【努力目標】業務内容を見直し、効果的・効率的な提案を行っている	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	▲コロナの影響で、2学期に行事が滞り、それぞれの部会で担当する授業が多くなり、負担となっていました。教員アンケート：79%	B	C
	②業務内容の平準化	19	教頭	【努力目標】業務内容を精選するとともに、繁忙期の業務分担への改善策を示している	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○複数で業務を担当することで、業務が分担はできている。 ▲新しい取組が増えており、再度精選が必要である。教員アンケート：85%	A	B
	③定時退校日（月2回）最終退校目標時刻（19：30）の設定	20	教務	【成果指標】定時退校日・帰校時間目標を示し、達成できているかどうか毎月把握し、達成できない職員の原因と改善策を示している	肯定的な評価の割合（勤務時間報告） A：十分取り組んでいる95% B：取り組んでいる90% C：十分とは言えない80% D：不十分である	毎月	▲個人差が大きい。仕事の優先順位をつけて19：30までに帰校出来るようにする。 9月：44.7時間 10月：44.8時間 11月：39.6時間 12月：-	C	C

### 3 自己有用感に裏付けされた自尊感情の高い児童の育成

重点目標	評価項目（具体的な取り組み）	番号	担当	評価の指標	肯定的な評価の割合（評価方法）	実施時期	成果（○）課題及び改善策（▲）	7月評価	12月評価
自己有用感に裏付けされた自尊感情の高い児童の育成	積極的な生徒指導の充実	①生徒指導の3つの視点を活かした居場所づくりと絆づくりと不登校の未然防止	生徒指導	【成果指標】学校や教室は安心できる場所と感じている	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	▲大きなトラブルはなかったが、人間関係がうまく作れず、教室が安心できる場所と感じられていない児童もいる。と告げられる。2学期実施したコンクainterを継続して行っていく。 ・児童：93% ・保護者：84%	A	B
		②「あたりまえのことをあたりまえに行う子」の育成	生徒指導	【成果指標】先生は、間違っただけで言葉遣いや行動を注意している	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○全校で和音つ子のきまりを認識させ、なぜ守らなくてはならないかを理解させた上で、さらに個別に指導を行っている。 ・児童：97%	A	A
		③「思いやり挨拶」の習慣化	生徒指導	【努力目標】自分から進んで思いやり挨拶を行っている	肯定的な評価の割合（児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○代表委員会による挨拶運動では多くの児童が自主的に参加している。 ▲玄関での挨拶運動はできているが、廊下で出会う挨拶ができない児童が少くない。児童アンケート：89%	A	B
	心の教育の充実	①自己有用感・自己肯定感を持たせる場面や機会の意図的設定	生徒指導	【成果指標】自分は学校や友だち・家族のために役に立つことをしている	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○集会や学校だより等で良い行いをした児童を認めたり、表彰で表彰状を贈りしめたりしてきたことで、児童の自己有用感が高まってきている。 ・児童：83% ・保護者：79%	B	B
		②地域学習や訪問活動などを通じた郷土愛・思いやりの心の育成	教務	【成果指標】子どもは、ふるさと和意のことを大切にしたいと思っている	肯定的な評価の割合（児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○道徳のGTで地域の人材を活用した。また、総合で地域を調べる学習を行い、地域の良さを知る機会となっている。児童アンケート：98%	A	A
		③児童会及び縦割り活動の実践	児童会	【努力目標】児童会や6年生を中心に全校が協力して活動を行っている	肯定的な評価の割合（児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○運動会だけでなく様々な学校行事で常に6年生が先頭に立って行事を進めているため、下学年は安心して活動できた。児童アンケート：92%	A	A

### 4 家庭・地域から信頼される学校

重点目標	評価項目（具体的な取り組み）	番号	担当	評価の指標	肯定的な評価の割合（評価方法）	実施時期	成果（○）課題及び改善策（▲）	7月評価	12月評価
家庭・地域から信頼される学校づくり	信頼される学校	①地域の資源（人・物・金・時間・情報・ネットワーク）の効果的な活用	教務	【成果指標】単元を見通して、計画的に地域の資源を活用している	肯定的な評価の割合（学期ごとの地域人材活用） A：全学年それぞれ1回以上 B：全学年で3回以上 C：全学年で1回以上 D：活用していない	7月・12月	1 / 2道徳公開授業で全クラスGTを招聘できた。	A	A
		②保護者・地域の意見を生かした学校運営の改善	教頭	【成果指標】アンケートや学校評価の結果や改善点を保護者や地域に伝えている	肯定的な評価の割合（学校だより・HP・学校評議員会） A：改善点まで伝え、地域の意見を反映している B：改善点を伝えている C：結果のみ伝えている D：伝えていない	7月・12月	学校だより・HP：12月公開 学校評議員会：3月予定		A
		③ふるさと和意を担う子の育成（横断歩道七尾モデル）	保健主事	【努力目標】行事や学習・登下校時に交通安全教育を実施し、児童に横断歩道七尾モデルが浸透している	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○街頭指導に協力してくれているボランティアから横断歩道の渡り方が良くなったという話があった。 ▲全校で取り組めるよう、さらにできている子を褒めていく。教員アンケート：77%	C	C
	健康の保持増進及び安全管理	①「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣の推進と定着	保健主事	【成果指標】早寝・早起き・朝ご飯の習慣が身に付くよう働きかけている。または身に付いている。	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	▲児童の健康指導は行っているが、保護者への発信が不十分であった。保護者への啓発を今後行っていく。 ・児童：91% ・保護者：82%	A	B
		②体カアップ1校1プランやスポチャレいしかわへの積極的な取組	体育担当	【努力目標】体カアップ1校1プラン・スポチャレいしかわに取り組んでいる	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○各学年体育の時間を活用して取り組むことができている。教員アンケート：92%	B	A
		③命を守るための安全教育・安全指導の推進	保健主事	【成果指標】行事や学習・登下校時に防災教育や安全教育を実施している	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○事前指導を行った上で、計画的に訓練を行うことができている。市の屋外放送からの訓練にも臨機応変に対応できた。 ・児童：98% ・保護者：97%	A	A